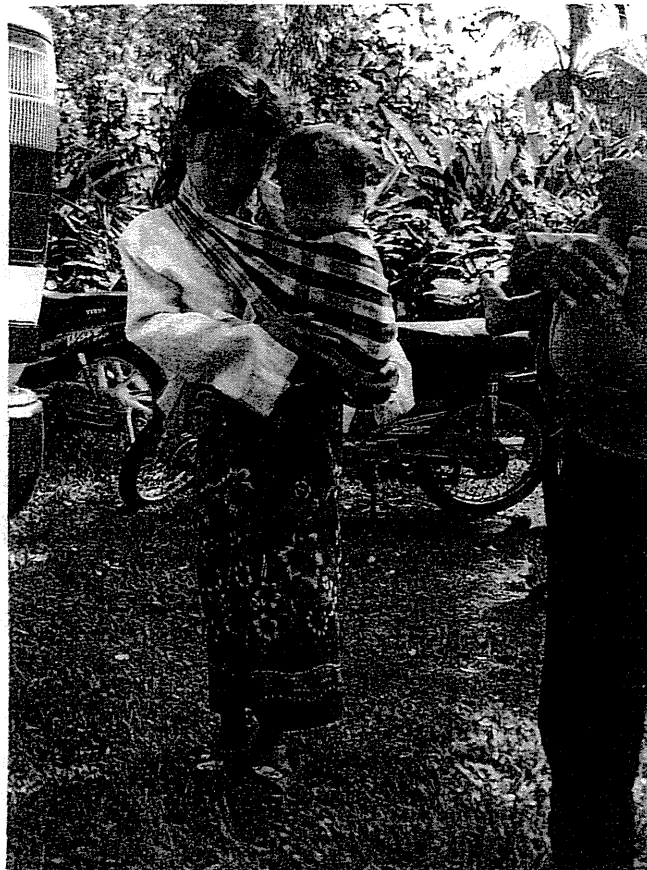


じゃっと新聞

平成15年11月5日

2003年9月視察
日～9月28日)

朝、川内を出発
のまだ明るいう
に到着しまし
に迎えていた
泊も居候しまし
ンでは“じゃっ
集まってくださ
開きました。いつ
った斎藤さん、奈
筒さん、村方さん
外協力隊の宮本
アボランティア
いひと時でした。



(2003年9月21

し12時間後、夕刻
ちにヴィエンチャ
た。村方千鶴さん
き、彼女の家に2
た。ヴィエンチャ
ど”支援の方々が
り一緒に食事会を
ものメンバーとな
良さんご夫妻、瀬
に、新しく青年海
さん、そしてシニ
の沢田先生と楽し

ウドムサイ（ラー郡）のセミナーに参加している女教師の子供達

さて、今回はラオス国の北部ウドムサイ県へ行ってきました。現在 JICA の KIDSMILE プロジェクト（子供の保健に関する事業）の学校保健事業を下請けしています。

吉田いつこ現地リーダーのもと、古閑さん、サーヤさん、マイさんの4人で充実した活動を行い、成果をあげていました。

学校を3校訪問、セミナーの準備会2日間、セミナー参加（ラー郡1日、サイ郡2時間）をしました。セミナーは大変有意義なものでした。概要は表をみてください。

まず講師たちとは事前 meeting で、話し合いを十分にもちました。講師のおひとり、Mrs.DuoangDuoangさんは、日本のNGOラオスに絵本を送る会をチャントソンさんといっしょに、もう15年の経験。もともと教師だった方ですが、事前の meeting で、講師へ講義のすすめかたの指導を行ってくださいました。わざわざ、文部省の会議を欠席して“じゃっと”のためにウドムサイに来てくださいました。彼女が「問題があつて、セミナーが

行われる。解決策をさがすのが、セミナー。解決なくしてセミナーの意義はない。」と。Pheopphet 医師は、ウドムサイ保健局の衛生部副部長ですが、講義が大変上手です。話し合いでは、Mrs.DuoangDuoang が Dr.Pheopphet にもうまく発言させてもうひとりの、こちら側からは不安の大きかったもうひとりの講師へ、働きかけてくださり、県のコーディネーターたち、“じゃっど” スタッフたちから、いい意見を導き出しと、同席していた私は本当に感動しました。セミナーを作り上げていくという作業が、大変質の高いレベルで行われ、その場にいることができたことは幸いでした。

もちろん、セミナーも充実しておりましたし、1 日目の閉会の片付けはじめるとすぐに、Mrs.DuoangDuoang から、いますぐに反省会をしましょう。と提案があり、郡の担当者、保健局、教育局のコーディネーターもいっしょの反省会が開かれました。次への改善を前提の反省会でしたから、翌日すぐに反映されていたようです。3 日目、4 日目と良くなっていったであろうと確信できます。

セミナーの数日後から、セミナーを受講した先生のいる学校訪問をしています。子供達が紙芝居をしてみせてくれる、歌を歌っていたなど、セミナーで披露した紙芝居、歌がもう子供達のものとして動き出している学校もあったようです。中には、先生がどのように子供に伝えようかと悩んでいる学校もあり、現在、吉田リーダーが細かなアドバイスをしながらウドムサイ教育局とともに対象校 48 校を巡回しています。

セミナーの最中からウドムサイの県保健局、県教育局の動きがよくなったと吉田リーダーから報告がありましたが、ウドムサイの人たちが一緒に、作り上げ、やり遂げたという達成感を得ることができたのでは。また、吉田リーダーは、セミナー会場ではほとんど表に出ずにやっていますから、保健局、教育局は大きな満足感があったと思われます。サイ郡のワークショップには、県保健局からの来賓がありました。そして、副知事から、“じゃっど” への感謝とともに自分たちの活動を進めていこうとするすばらしいスピーチをいただきました。JADDO ラオス人スタッフも、自分の仕事として、考えながら行動しているので発展があります。こういうことの積み重ねが、今後の継続へのもことになると思います。JICA の新総裁となられた緒方さんが、「現場の声を大切に、現場からよい策は生まれる。」と話していらっしゃいました。(テレビのニュースの一瞬だけでしたが。) こういうことだと、ウドムサイの活動視察をふりかえって思います。

12 月の視察で、ワークショップの成果として、先生たちの授業、子供達の発表を見ることができると楽しみです。一緒にウドムサイへ行きませんか。

ウドムサイ県、小学校教師の健康教育ワークショップ

2003 年 9 月 26 日～29 日

日	対象地域	対象学校数	参加人員
26 (金)	ラー郡	10～	約 50 人
27 (土)	サイ郡	12～	約 50 人
28 (日)	サイ郡	13～	約 50 人
29 (月)	ベン郡	10～	約 50 人

対象校、人数は当日に増加の可能性大。俯瞰全校からの参加があるかもしれないため。

講義スケジュール

8 : 00	registration		教育局, JADDO
8 : 40	Opening ceremony		保健局、教育局
9 : 00	orientation		Mr.Sayya
9 : 15	Part 1 School health Child to Child	講義	Dr.Pheopphet Mrs.Bouavin
10 : 30	Coffee break	地図の前で説明 学校所在地図、水トイレ事情	(Mr.Mai)
10 : 45	Part 2 Education Package	紙芝居、本、CD、テープの 紹介	Mr.Sayya
12 : 00	Lunch break	食後に小講義 「今日のランチ何含有？」	Mrs.Bouavin
13 : 00	Kamishibai について 紹介、使い方、目的など	紙芝居のデモンストレーシ ョンをまじえた講義	Mrs.DuoangDuoang
14 : 00	Kamishibai の練習	グループに分かれて練習	MrsVankham Ms.Davone 他
15 : 00	希望者発表と評価	2 名が紙芝居を実施 Mrs.DD から評価	Mrs.DuoangDuoang
15 : 40	Closing Ceremony		保健局、教育局
	片付け		
16 : 00	関係者反省会		

《国内活動》

9月1日 JICA総裁主催意見交換会（鹿児島市にて） 帖佐会長出席
9月8日 ”じゃっど”会 虎頭さん、松下さん、増岡さん、帖佐出席
9月20日 ラオス雑貨値段付け、ラオス視察の打ち合わせ
小幡さん、増岡さん、帖佐、宮脇
9月21日～28日 ラオス視察 帖佐会長
9月30日 鹿児島県総務部国際交流課職員脇氏、米元氏がじゃっど事務所訪問
10月4日 ラオス雑貨値段付け及びバザー用品の準備 三本さん、増岡さん、宮脇
10月15日 さつまパイロットクラブにて講話（鹿児島市） 帖佐会長講話
10月17日 かごしま地球人まつり準備会（川内交流センターにて） 伊東さん出席
10月20日～10月24日 じゃっど活動パネル展示（川内郵便局にて）
10月25日～10月26日 かごしま地球人まつりに参加（ラオス雑貨のバザー）

* 雑貨販売の様子

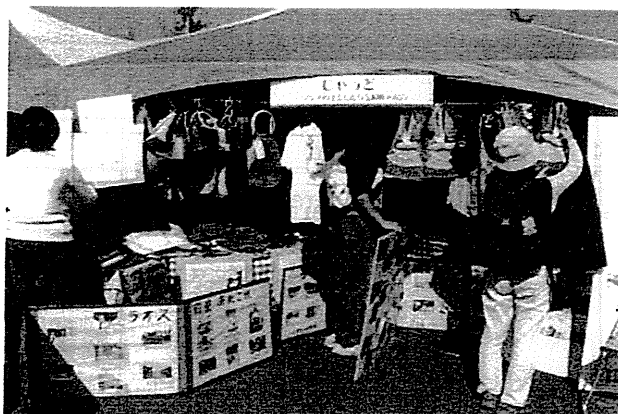
2日間で21名の会員、会員のお知り合いの方々にお手伝いいただきました。遠くは、始良郡や、鹿児島市からもお手伝いいただきラオスで活動している吉田さんから送っていただいた小物、布、アクセサリ、マフラーなどの販売をしました。収益金（約5万円）は、ラオスでの保健教育資金の一部として活用させていただきます。あらためて、御忙しい中お手伝いいただいた皆様にお礼申し上げます。

純心大学祭の方は、1日目はパネル展示会場にて雑貨の販売も致しましたが、パネルの準備片付け等は、川内郵便局の平川さんにご協力いただきました。

多くの方々のおかげで、ラオスのこれまでの活動、現在の活動を知っていただき、ラオスの手作りの製品に触れていただき、また、賛同いただき、ご購入していただきました。

「がんばってください。」とエールも頂きました。

今回のかごしま地球人まつりへの参加は、じゃっどの活動をより多くの人に知っていただくよい機会になったと思います。



* トークディスカッション

1. トークタイトル 「へんやっど、鹿児島人」
2. 出演者 バックンマクン
県在住テレシータさん
県国際交流員のフィリップさん、
帖佐会長

3. 内容 トークディスカッション

フィリップさんの驚き：電車の中で眠れる安全な日本

テレシータさんの驚き：フィリピンでは学校の清掃は業者が行う。日本の子供たちが、自分達で清掃することは良い（バックン、フィリップさんも賛同）



帖佐の驚き：アメリカのトイレは、1つの部屋に便座が3つおいてあっただけ

バックン：タバコや、麻薬をかくれてすわないように（壁がないトイレがある）

等、各国であたりまえが、他の国では驚きになるという楽しい会話ができました